



## 【取組6-1】地域日本語教室運営者・コーディネーター研修会

運営受託: (公財)横浜市国際交流協会

テーマ	日本語学習支援ボランティア活動について、多文化共生の視点から考えてみよう
講師	長谷部美佳さん(明治学院大学教養教育センター 准教授)
日時・場所	2026年2月20日(金)10:00~12:30 横浜国際協力センター6階
対象	・横浜市内の地域日本語教室等で、運営やコーディネートを行う立場にある人、係を担っている人 ・日本語支援での企画運営等コーディネートを行う人
参加人数	27名

## 【事業概要・趣旨】



地域日本語教室運営者・コーディネーター等を対象に、研修会を行った。

## 【目的・目標】

地域日本語教室の運営やコーディネートを行う立場にある人たちが集まり、ボランティア活動と多文化共生の関係について考える。多文化共生の視点からボランティア活動の意義などについて考えながら、今の活動を振り返るとともに、参加者同士でテーマについて話し合い、情報共有や意見交換の中で、気付きと活動へのヒント・アイデアを得、今後のより良い活動につなげる。


## 【参加者の声】

ボランティアの基礎を今一度確認できた。  
多文化共生とはも確認できた。  
ボランティアの役割について改めて考える。

「居場所」としての日本語教室というのが、より理解が深まった。わかりやすいお話で、うなづけることが多くあった。いろいろ側面から見方が分かってよかった。



## 【取組6-1】地域日本語教室運営者・コーディネーター研修会

運営受託：(公財)横浜市国際交流協会 

## 【大まかな内容の概要と解説】

## &lt;地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業について&gt; (担当：YOKE)

- ・横浜市域での地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業の目的について
- ・2020年度～2024年度事業の取り組みの実施概要・成果・課題について
- ・2025年度の事業の目標について

## 横浜市地域日本語教育推進アクションプラン (2025年度～2029年度)

- ・今年度、実施した取り組みの簡単紹介および今後について

## &lt;居場所としての日本語教室&gt; (担当：講師)

講座では、多文化共生とは・マジョリティとマイノリティ・社会統合・ボランティアとは・日本語教室の役割などのキーワードについて学びました。

多文化共生とは「国籍や民族が異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として生きていくこと」である。その対等な関係はどのように築けるかについては、マジョリティ/マイノリティの側面から、社会のいろいろな環境がどのような仕様なのか、社会的には互いに理解できていないところもあるという指摘がありました。例を挙げながらの説明だったので、わかりやすかったです。そして、在日外国の人たちにとって、困りこと一つが「言葉の壁」いわば日本語の壁である。「外国人の社会的な底辺化を防止あるいは阻止する過程である」との統合についての話がありました。その中で印象に残ったのが、つながりは財産（ソーシャル・キャピタル）。その概念に触れ、つながりの重要性について再認識しました。ボランティアとは何か、活動の意義は何か、学習者にとって地域日本語教室の支援者の役割及び社会的に持っている意義についての話がありました。

講義の後半では、参加者によるディスカッションが行われ、いろいろな話が広がったように見受けられました。

## 【成果】

- ・多文化共生の視点から、日本語ボランティア活動について考える機会となった。アンケートの「学習者さんにつながるという感覚、学習者の「居場所」という感覚、認められるということ」が印象に残っているとのコメントなどから、活動の不安や悩みへの対処・自分たちの活動の意義について一定の学びがあったのではないかと考えられる。
- ・研修前は、ボランティア活動についてなんとなく理解している、あるいは明確な理解をもっていない方も、研修を通して「マジョリティ/マイノリティの捉え方・・・日本語の勉強は大事だと思っていてもやりたくなくなる過程の話は、とてもよかった。」など、多文化共生や施策のつくり方、活動の目線について学び、今の活動がどのような意味や効果につながるかを再認識したことでボランティア活動への理解が深めることができたのではないかと考察する。

## 【課題や今後に向けての改善点】

地域日本語教室自体が学習者にとっては、日本社会とつながるための入口でもある。そこで活動している支援者は学習者と社会の橋渡しの役割を持っている。このような意義などを研修のその場にいた全員に共有することができた。

このような研修を増やし、教室の運営者が「自分たちの活動がどのように多文化共生につながっているのか」という日本語学習支援の意義を理解し、それぞれの活動に反映できるようにしていきたい。

地域日本語教室運営の課題については、解決できるものもあれば状況によって、すべてが解決できるとは限らない。今回の講座でも、運営面の課題も多く寄せられていたが、目の前の課題にとられ、活動の本質—活動の理念や意義について十分に考える余裕がない状況もあるのではないかと考えた。このような講座を行いながら、活動の在り方について、改めて目を向けることによって、方向性を保ちながら活動を進めていけるように支援していきたい。